

公表

## 事業所における自己評価総括表

○ 事業所名	幼児グループわんぱく		
○ 保護者評価実施期間	令和6年12月27日	～	令和7年1月10日
○ 保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 27名
○ 従業者評価実施期間	令和6年12月27日	～	令和7年1月10日
○ 従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団療育により、子ども同士での関わりの経験を大切に支援し、友だちと関わる楽しさを感じ、共感する気持ちを育てている。	小集団療育により、子ども同士、年下・年上の子どもから刺激を受け、心身の発達を促している。異年齢集団の中で、子ども1～2人につき職員1人を配置し、子ども同士の関わりを大切に支援している。プラレールやハンモックなど友だちと同じ空間で遊べるよう遊具の選定など環境設定に留意している。その中で、物を介してのやりとり、ことばでのやりとり、おもちゃの貸し借りや順番などを伝え、職員が必要に応じて介入している。友だちと関わる楽しさを感じ、共感する気持ちを育てるように関わっている。	療育後の振り返りは時間を取って支援者全員で話し合っているが、より深く療育を見直すためのケース検討会議を開催できていない。全体の業務量が増えているために職員が準備できないことが一因だが、開催方法を工夫し定期的にケース検討会議を行ってきたい。
2	利用児個々の興味関心に合わせた好きなおもちゃや教材などを用意し、子どもが楽しめる時間や環境を整え、主体性を涵養している。	前年度の保護者の事業所評価では、「毎回子どもが興味持つ教材を用意してくれるなど、楽しく取り組める工夫がある」などのコメントが寄せられた。発達年齢によって置くおもちゃを選んだり、サーキットの組み方などを変えるようにして、子ども一人ひとりが自分の好きなことをして楽しめる時間や環境を整えている。毎日の絵本の読み聞かせでは、「これがいい」と絵本をリクエストするようになった児もいる。	おもちゃなどの教材や、新しい遊び方の探求については、日ごろから注意して情報を収集している。これからも外部研修やインターネットからの情報などを利用して遊び方や教材などを工夫していきたい。
3	アルバイトスタッフを含めて気軽に話し合える雰囲気醸成されており、自己研鑽の意欲も高く真摯に療育に取り組んでいる。	常勤職員3名、非常勤職員1名と全体で4名の職員体制であり、日頃から事業所が進むべき方向性などに関して意見を交わせる環境に留意している。アルバイトスタッフも参加して、療育後に話し合う時間を1時間設けており、立場に関係なく忌憚ない意見を言い合える雰囲気を保つようにしている。保育士や公認心理師、言語聴覚士など専門性を有する職員を配置しており、専門的な視点で共有しやすい。法人では外部研修の受講費の助成制度を設けているほか、社会福祉士や保育士、専門職資格を取得した場合は受講料を負担している。アルバイトスタッフを含めて資格手当を支給している。	現在も地域や専門職の団体、行政などが主催の学習会の情報を職員、非常勤、アルバイトスタッフに伝え、研修をうけることを推奨している。資格取得を勧めるだけでなく、それが具体的な業務の拡大につながるように後押ししていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外遊びが行いにくい環境にあること。	園庭が狭く、固定遊具がない。近くに公園が少なく、車の多い道を通らなくてはならない。	狭い園庭だが、タイヤや板などを使ったり砂場を設置するなどして活用できるように工夫しているが、遊具などを選定してより楽しく遊べる環境づくりをしていきたい。支援者の配置などを工夫して遠足などができるようにしていきたい。
2	安全計画の実行性を高める必要があること。	「安全計画」を策定しており、各種マニュアルの策定と見直し、ヒヤリハット、要安全確認箇所の共有、訓練の実施を網羅した全体方針を明記している。マニュアルに関しては、事故対応マニュアルや事故等緊急時連絡網、遊びの場面での安全確保マニュアルなどを作成しているが、水遊びの場面での安全確保マニュアルの作成が追いついていない面もある。また、緊急救命研修を行っているが回数の少ないアルバイトスタッフへの参加が徹底されていない。	「安全計画」をより実効性のあるものとするため、必要なマニュアルの作成をする。アルバイトスタッフにも研修を受ける機会を持てるように、オンデマンドなどを活用する。
3	専門職が多く在籍しているが、日々の療育の振り返り以外のケース検討会議の回数が少なくなっていること。	全体的に書類作成の業務が増えていること、他事業所との連携ケースが増えていることから職員がケース会議の準備などができない状況にある。	アルバイトスタッフが記録を読み返し、疑問点や改善点などを発信できる時間を持てるようにする。事前準備などの時間をかけずに支援者がそろう一つのケースについて話し合える時間を持てるように工夫する。